ハイチ大地震被災者支援
障がい者施設へ補助器具を配付

この度は、2021年8月14日に発生したハイチ共和国における大地震被災者への支援のためご寄付を賜り、誠にありがとうございました。ご寄付により、地震被害により脆弱な立場に置かれている障がい者の方々へ補助器具を配付し、少しでも安心して生活できる環境づくりに貢献することができました。

今回、障がい者支援を行うことになった背景として、南県において大地震で障害をおった方が多くいたということがあります。南県で障がいを持つ人は、1,600人以上ですが、今回の大地震により、約3,200人以上が新たに身体的な障がいをおったと推定されています（国連人道問題調整事務所、2021年9月発表より）。また、地震による倒壊などで負傷した人々は1.2万人以上に上り、継続的なリハビリテーションサービスを必要としています。多くの被害がでた背景には、地震による交通アクセスの混乱や困難、多くの負傷者が一斉に来院したことによる医療提供体制のひっ迫があります。その結果、治療開始が遅れたことに伴う傷口の化膿や、症状の悪化などが原因で、障がいが残ってしまった方も多いそうです。また、ハイチでは障がい者の方々をはじめとする人々への公的支援や社会福祉制度は、未だ十分に整えられていないのが現状です。

今回支援を実施した「ハイチ南県障がい者市民運動施設（MCPHPSH：le Mouvement Citoyen des Personnes Handicapées Physiques Sud d’Haïti）」は、震災前、障がい者の方々へ宿泊場所の提供、レクリエーション活動やイベントを開催したりするなど、多岐にわたって活動していました。しかし、今回の震災で、施設は全壊。利用者はテントや避難所、親戚の家での避難生活を強いられたり、施設はイベント活動の中止を余儀なくされました。震災前、施設の利用者数は約120名でしたが、現在は約240名と2倍に急増しています。新規登録者の40％が、今回の大地震により障がいをおわれた人です。利用者が増加する一方、障がい者の方々にとって、自分自身で移動できることは自立や自尊心の維持、社会参加の観点から、極めて大切であるにもかかわらず、十分な補助用具がないことが課題となっていました。

そこで私たちは、今回頂いたご寄付で、施設を利用する方々のために、120名分補助用具を配付することにしました。配付後、受益者は自由に移動することが可能になり、多くの感謝の言葉をいただきました。

ハイチ共和国

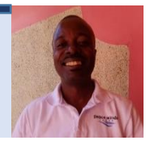
スタッフの声

PWJハイチ事務所
現地スタッフ
ウィリアム・デニス

ハイチで暮らす障がい者の方々は、尊厳されないことも多く、差別・偏見に苦しんでいます。社会的にも排除されており、働く機会も極めて少ないです。誰もが使いやすいユニバーサルデザインや、安全な歩道の整備も進んでおらず、生活の様々な場面で不自由さがあります。1987年のハイチ憲法改正で、障がい者の権利に言及されましたが、誰かの助けを必要とせずには移動できない現状は、自由に移動・アクセスする権利がいまだ大きく制限されていると言わざるを得ません。今回のニーズ調査と支援の経験から、震災後、障がい者の方々が抱える問題がより深刻化している事実を痛いほど感じました。例えば、今回の震災のように、危機的な緊急事態が発生した場合、障がい者は、最も犠牲者となりやすいです。がれきが散乱する中、自分の力だけで車いすで移動したり、崩れた家の中から安全な場所へ避難したりすることが難しいからです。また、障がい者にも、他の市民と同じように働く権利がありますが、なかなか仕事を得ることができません。今回、支援の対象となった障がい者の方々からは、「初めて恩恵を受けた」という感謝の声がたくさん寄せられました。PWJのハイチチームは、障がい者の方々への支援に関わり続けていきたいと思います。

スタッフと松葉杖を受け取った受益者

今回の支援プロジェクトで、障がい者の方々の自立した生活に貢献できたと自負しています。自由な移動の保障は、人間の自立・自尊心において、とても大切なことです。障がい者の方々が、より容易に移動できるようになるための用具・器具を提供できたことは、生活改善や社会参加にもつながりました。この支援を通じて、ハイチ地震の被災地域に暮らす障がい者の方々が抱える課題も明らかとなりました。まず、障がいを持つ人々の大多数は働く機会が少ないので、彼らは自分自身や家族の食料を確保することができません。また、地震による家屋倒壊で、安全・安心に暮らせる場所がなく、住宅の建設・再建・修繕が必要です。病院などの建物被害や、医療スタッフ自身の被災で、医療アクセスはますます困難になっており、その確保も重要です。これらのニーズを踏まえ、PWJは今後の支援を検討してまいります。身体の不自由な人々のために、ハイチの人々のために、私はこの重要なプロジェクトの実現に貢献してくださった支援者の皆さまをはじめ、すべての関係者に感謝します。



PWJハイチ事務所
現地スタッフ
ジャン・ノシノルド・クレジャー

PWJスタッフと障がい者施設スタッフの集合写真。配付にあたり何度も会議や調整を行いました

会計報告

【ご寄付額】

NPO法人ハイチの会セスラ　様	¥250,000
ハイチ友の会　様	¥1,300,000
合計	¥1,550,000

【費用】（2022年2月14日～2022年3月28日）

補助器具購入費	¥690,197
補助器具輸送費・移動費	¥207,631
事前調査・補助器具配付人件費	¥264,672
一般管理費（25％）	¥387,500
合計	¥1,550,000

peace winds JAPAN
発行／特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン　発行日2022年3月31日
本部事務所：〒720-1622　広島県神石郡神石高原町1161-2　2階
☎0847-89-0885（代表）
東京事務所：〒151-0063　東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12　富ヶ谷小川ビル2階
☎03-5738-8020

計120人に対して補助器具を配付しました

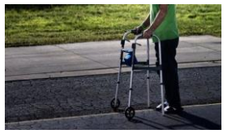
PWJは2022年1月より施設の関係者と障がい者支援のニーズ調査を行いました。移動用の補助用具の必要性が高いことがわかったため、2022年3月12、24、26日に車椅子12脚、歩行器15脚、松葉杖41脚、白杖（視覚障がい者用）32脚、杖20本を施設に提供しました。

COVID-19拡大防止対策も徹底

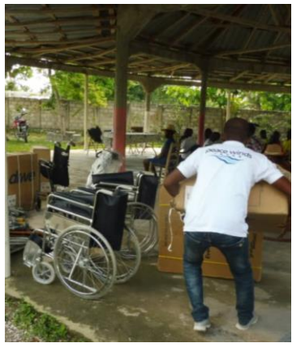
活動の流れ

地震被害後の施設の様子です。施設内の広間と受付の部分、破損が激しく現在は使用されていません

施設の代表とPWJスタッフの打合せの様子



日常生活に必要な移動用補助器具に決定



配付へ向けて物資を車から降ろします

配付の流れや、皆さまからのご寄付であることなどを受益者の方々に説明しました

受益者の方々に補助器具を一人、一人手渡しで配付しました

受領の確認と補助器具が正しく使用できるかの確認も行いました

障がい者施設の事前調査 → 施設との調整・配付物資決定 → 受益者への配付

受益者インタビュー1

新しい車椅子を受け取り、前向きな気持ちになりました

9歳のとき、交通事故で両足を失いました。突然、身体障がい者になり、身体的にも、精神的にも、とても苦しかったです。震災前は、ピーナッツバター（マンバ）などの加工製品を販売し、4人の子どもと家族を養っていました。しかし、地震後は働いていた工場が倒壊し、同時に仕事を失いました。ハイチの失業率は、震災後さらに悪化したため、私たち障がい者にとっても、新たな仕事をなかなか見つけられません。今も、生活はとても苦しいです。

もともと使っていた車椅子は古く、写真のように座席の部分が破れてしまい、長時間の移動・使用が困難でした。買い替えが必要でしたが、被災と失業で、購入できていなかったところ、新しい車椅子の支援は、嬉しかったです。震災後、気持ちが落ち込みがちでしたが、新しい車椅子は自分の力だけで自由に動くことができて、気持ちいいです。これからの未来に対しても、少し前向きになれました。

今は、家族のために、新しい仕事を一日でも早く見つけたいです。4人の子どもたちにも、美味しいご飯を食べさせ、学校に楽しく行かせてあげたいです。

ジョセフ・ピエロさん

以前使用していた車椅子

受益者インタビュー2

家族の負担も少し減るので安心です

私は、祖母と弟と一緒に暮らしています。足が不自由なために、毎日の生活で、社会から疎外されているように感じることがあります。ハイチで、私のような障がい者が社会的に受け入れられている、とは言えません。差別や偏見があり、毎日の生活は決して楽ではありません。

地震の後、以前から使用していた車椅子は、でこぼこな道路のせいで、車輪が壊れてしまいました。そのため、ちょっとした移動にも、家族の介助が毎回必要で、心苦しく、もどかしく思っていました。新しい車椅子を受け取ることができ、自由に自分の力で移動できる喜びを感じています。家族への負担も少し減り、お互いに安心してより良い生活を送れるようになりました。

ノンス・ミケランジェさん

受益者インタビュー3

アルテマ・チャーレンズさん

これからは自力で学校に行ける

地震で、足を骨折しました。何の道具もなしに、たくさん歩くことはできません。両親がバイクで学校まで送迎してくれていましたが、バイクの燃料を払えないときは、学校に行けませんでした。家にいるしかない日は、寂しく、憂鬱でした。今回受け取った松葉杖を使って、自分で歩いて、学校に行けるようになりました。今は、毎日、学校で勉強できて、友達と遊べるので、とても楽しいです。この松葉杖は、とても嬉しいプレゼントでした。